



将来に展望を持ち、自分の強みを生かして社会参画へ!

情報ジャンプ



リーフレット
進路の情報



大阪府外教



文部科学省
(かすたねっと)



大阪府教育庁
進路サポート事業



おおさか子ども
多文化センター

学級担任 市町外教 教育委員会

進路指導担当 進路保障協議会

多言語進路ガイダンス 高校見学会

小・中・高交流会 職業体験 高校出前授業

ロールモデルとの出会い 中・高連絡会

授業料免除 就学支援金制度 奨学金制度 通訳派遣

特別枠入試 配慮事項 行政の母語での入試情報

③ 日本語教育と学力保障

学級・教科担任 日本語指導加配

通訳・言語支援員 巡回指導担当

国際・日本語・母語教室 ICTを活用した日本語指導

地域の日本語教室 クラスとつなぐ学習

母語による教科指導 取り出し・入り込み指導

日本語指導教材 オンライン教材

リライト・デリート教材 評価ツール(DLA)

JSLカリキュラム 特別の教育課程

地域の国際交流センターやNPO法人

ちがいを尊重できる仲間

夜間中学

通訳者

子どもや保護者によりそ教職員

在日外国人の人権学習 差別を許さない雰囲気づくり 母語での説明会・懇談・相談窓口

在籍する子どもの国や地域の文化を知る学習 受入れ体制と信頼関係の構築(名前・言語・学習・学習歴)

多言語表示 情報のルビ打ち

「やさしい日本語」での情報提供 翻訳機・翻訳文

① 民族的アイデンティティの確立

ネイティブの教員 ロールモデルの先輩

モデルとしての保護者 民族講師

ゲストティーチャー 外国にルーツのある教職員

地下鉄ボランティア活動 保護者の聞き取り 作文コンクール

文化発表会 国際・日本語・母語教室

小・中学校への出前授業 母語継承語指導 サマースクール

母語での掲示 母語の本・教材

社会科教科書 民族楽器

民族衣装 食文化

② 社会への信頼とつながり



ヒト(関わる人材・機関)



コト(行事・とりくみ)・バ(場)



モノ(教材・制度・情報)

国際人権規約

子どもの権利条約

根拠となる条約や法律等

日本語教育推進法

18年間の育ちを支え、展望のある未来を!

就学前

6

小学校

12

中学校

15

高校

18

進学・就職

●世界中から帰国・渡日する子どもたち

近年、様々な理由で日本に移り住む外国につながる子どもたちは増え続けています。多くの場合、親の仕事の都合などで故郷を離れ、ここ日本での生活を始めることとなります。また、日本生まれの子どもたちも増えています。

言語の壁、生活習慣や文化のちがいに戸惑い、大きな不安を抱えたまま、日本での生活が始まります。また、様々な要因から未就学期間があったり、夜間中学での受け入れなど、通常の就学環境では語れないケースもあります。そんな子どもたちが安心して生活し、展望をもって生きていくことのできる多文化共生社会とはどんな社会なのでしょう。子どもたちの言葉や姿から考え、ともに未来を創っていきましょう。



日本ってどんなところ?

「日本に行きたくなかった。友だちと離れ離れになり、自分はぜんぜん知らない言語を使うのが不安だった。」

(ルーツ:中国 中学3年で渡日)



友だちになってくれるかな…

「最初はワクワクしてたけど、笑われ、からかわれた。帰りたいと思ったけど、親に心配させたくないで相談しなかった。」

(ルーツ:フィリピン 中学1年で渡日)

●子どもたちを受け入れるための学校体制づくり

想像してみてください。異国の学校にやってきて、まったく理解できない日本語で毎日何時間も授業を受け、ノートを取る。また、自分の考えを相手に伝えられないという状況がいかに大きなストレスなのか。不安は相当なものだと言えるでしょう。

それまでふれたことなかった文化や価値観を伝えてくれる存在として、尊重し学ぼうとするまわりの関わりがなければ、アイデンティティの危機(クライシス)につながってしまいます。大切なのは「あなたがいてくれてうれしい」「あなたのことがもっと知りたい」という言葉かけをする友だちが増えていくような学校の雰囲気づくりです。



日本語ってむずかしい…

「先生が省略語や早口で喋ると困った。想いや悩みを聞いてくれるおとももいたが、日本語で表現できないので、話すのをやめた。」

(ルーツ:ベトナム 小学4年で渡日)

●学習環境や日本語指導を含む学力保障

日常生活に必要な生活言語が比較的身につけやすい子どもたちであっても、学習言語の習得には5~7年かかると言われています。子どもたちのもつ母語や学習経験を生かし、学ぶ意欲を大切にしながら、丁寧な日本語指導や教科指導が必要です。そのためには、担当者や担任が一人で担わず、学校全体で協力体制をつくり、すべての教職員が意識して、「やさしい日本語」を活用した授業づくりを進めましょう。そうすることで、結果的にすべての子どもたちにとっての学力保障にもつながります。

また、「進路」も見据えた学習計画を立て、引き継いでいくことも求められます。



あんな高校生になりたい!

「自分は帰国子女で周りの日本人とはちがうと感じていた。でも先生は『あなたらしさを失わなくていいんだよ』と言ってくれた」

(ルーツ:日本・エクアドル 小学5年で帰国)



自分の強みって何だろう…

「外国人生徒担当の先生に憧れて、日本語の先生になる夢をもち、大学に進学しようと思った。」

(ルーツ:韓国 小学3年で渡日)

●高校入試制度・受験時の配慮や情報提供

日本の学校制度は帰国・渡日生やその保護者にとって大変複雑です。帰国・渡日生の特別な選抜や配慮を利用するのに、就学歴・入国時期や渡航歴なども必要となることもあり、公簿の正確な記載やいねいな引き継ぎが必要です。

また、帰国・渡日生の進路選択の幅は広いとは言えず、将来も見据えた自分の姿を思い描くことは容易ではありません。そこで、高校生や大学生、社会人などのロールモデルとの出会いが自分の目標を明確にし、「あんなふうになりたい」というイメージを得て、「がんばろう」という大きなモチベーションとなります。

●高校生活と将来への展望

義務教育を卒業し、高校などに入学しても、ともに学んできた仲間や地域からも離れてしまう場合もあり、残念ながら学校に居場所がないと感じたり、学習内容が理解できなかったりして、退学してしまうケースも少なくありません。

社会に出る前の時期にこそ、外国にルーツのあることの「強み」や「よさ」を生徒自身が自覚できるよう教職員がその思いに寄り添うことが大切です。社会の中で自分がどう生きたいのか、学校生活の中で生徒の持ち味が十分活かされる機会を提供しながら、一緒に考えることを大切にしましょう。

帰国・渡日の

子どもたちの

進路を保障するために

大阪府在日外国人教育研究協議会